

田んぼへ注がれる用水路の 落差を利用しました。

野川土地改良区(水土里ネット野川)



パルシステムの「産直米」を生産する産直産地のひとつである、JA山形おきたま。山形県置賜（おきたま）地域の田園地帯を流れる野川は農業用水として活用されながらも“暴れ川”としてしばしば流域に被害をもたらしてきました。そこで上流に2010年に完成したのが長井ダムと新野川第一発電所で、主に東北電力に送電していました。「その直後に東日本大震災が起きた。山形も大きく揺れ、原発事故後には福島からもたくさんの方が避難され今に至ります」と振り返るのは工藤誠一さん。脱原発のエネルギーを地産地消で作り出す大切さを痛感した工藤さんたち野川の人たちが、第一発電所からさらに下流に水路を引いて2014年に建設したのが「野川小水力発電所」でした。2台のプロペラ水車が24時間365日回り続け、年間に約108万kWhの電気を生み出します。およそ350世帯分の電気量です。